

東日本新人



2017年は、男子がシングルスカル、ダブルスカル、舵手付きクオッドがそれぞれ一艇ずつ、女子はダブルスカル2艇が出漕しました。

この大会は、2年生までしか出漕することができず、1年生にとっては初の大きな大会であり、2年生にとってはこの大会に出漕する最後のチャンスなのです。1年生は最初、何から始めたらいいのかなども分からず、2年生に習いながら少しずつ大会に向けての練習というものを習得する機会でもありました。各クルーが全力で取り組んだこの大会の2017年の結果は舵手付きクオッドが三位入賞し、銅メダルを獲得しました。

理工校舎での練習風景



平日は主にキャンパス内にて、エルゴを使い練習しています。学科によって空きコマや授業おわりの時間が様々なため、それぞれが時間の合うメンバーと共に練習します。「自分はやらないけどやってる人がいるから見に来た」と言って練習に顔を出すメンバーも少なくありません。行ってみたらなんか人がいっぱいいるなんてことも…。

寮生活でない理工ポート部にとって活動の大半がキャンパス内の活動となります。限られた時間でどうしたら練習効率上がるかなどを考え、メニューの試行錯誤を繰り返しながら活動をより良いものにしていきます。

女子エイトも組めそうです!!



現在の女子部員は、4年生2名、3年生1名、2年生3名、1年生3名とエイトを組むことができる人数までになりました。理工ポート部の歴史の中で、女子部員は多くなく、OB・OGの方々の中にもご存じない方もいらっしゃるのではないのでしょうか？戸田で練習していると、他大のポート部から女子エイトが出ているところを稀に見ます。今までは女子はスカル競技がメインでしたが、最近になってスweep競技も増えてきたようです。

この時代の流れに乗って、理工ポート部からいつの日か女子エイトが岸降りする時が来るのでしょうか？非常に楽しみです！

新入部員勧誘～試乗会



新1年生が入学してくる四月の入学式の日、キャンパス内では熾烈な新入部員勧誘合戦が勃発します。理工ポート部もこれに参戦していました。「実際に見ての方が早いだろ」と人目に付く場所でエルゴをしていたら、「なんかキツそう」なんて声がちらほら聞こえ、逆効果に…。しかし、ポート部特有の試乗会にはたくさんの方々が来てくれました。「実際に乗ってみてどうだった？」なんて聞いてみると、「新しい感覚で楽しかった」や「かなり難しかった」などなど。2018年度の試乗会は他大学との合同試乗会も行いました。そのかいあってか、1年生が17名と沢山入部してくれました。

現役部員の活躍



55年経った今

創立55周年を迎えた理工ポート部の現在の活動を、部員のコメントも交えながら少しもお伝え出来たらと思います。

現在の現役部員は男子26名、女子9名の35名となっています。

「最近、理工ポート部には1年生がたくさん入ってきて、賑やかに活動しています」(2年白井)

今を担うクルー

ポートを始めたきっかけは人それぞれです。現役クルーはどのような動機があつて理工ポート部を選んだのでしょうか？

「自分の体でポートを動かすのが楽しい」(1年中川)

「楽しい」そう思ったから入部しました(4年関)

2人に共通しているのはポート競技が「楽しい」ということなのです。

この春入部した新入生、昨年度幾つかの大会を経験した上級生は、今どんな思いで活動しているのでしょうか？

「知れば知るほど深みにハマる競技で、毎日楽しいです」(1年河合)

「夏休み期間中にシングルスカルを乗りこなせるように頑張る！」(1年河野)

「シングルスカルがとても面白かったのもっと練習したい」(1年中村)

「お花見レガッタでフォアのタイムが良かったことが嬉しかった。今後も頑張っていきます！」(2年宮本)

大会の結果や経験が原動力となっているのです。

ただ、夏休みもずっと戸田にいると日曜日の練習と何ら変わりありません。そこで、普段とは違った刺激を得るため、夏休みには合宿を行います。

Summer Day Camp

ここ3年間の夏合宿は岐阜県川辺漕艇場にて行われています。環境の違う場所での練習への心持はどのようなものか気になりますね。

「乗艇できる機会に、たくさん経験を積んで成長したい！」(1年玉井)

「途中参加ですが精一杯頑張る！」(1年川内)

「平日練習出来なかった分、合宿で暑さに負けず思い出さなければ作る」(2年劉)

合宿では練習はもちろんですが、練習後の夜も一緒に楽しい思い出もできますね！合宿での思い出は今後の話のネタにもなるのではないのでしょうか？

理工小話

「周りから『えっ！ポート部！？』って聞き返されることに慣れてきました」(1年杉田)

「今年の目標は4kgサバを読まずにしっかりと55kgで出場することです！」(2年加藤)

2018年のお花見レガッタに彼はcoxとして出場したのですが、大会までに体重を落とさきれなかったとか！

「主に女子部員との親交を深める活動をしています」(1年木村)

変わった活動をしていますね。彼もちゃんと練習していますよ。ただ、変わり者なだけです。はい。

それぞれが目指すもの

最後の学生生活において、ポート部に入部し、多くの時間を割いて活動していく中で、メンバーが目指すものを少し聞いてみましょう。

「毎モーション毎ストローク全力を注ぎ、最後まで向上心を持ってラストの大会に挑みたい」(3年岡本)

「理工ポート部に入ってからよかったです」(1年岡田)

大学生活を充実させるため、それぞれが目標を持ち、精進していく姿勢は以前も今も変わらないことだと思います。

創部秘話



昭和43年当時の中大漕艇部合宿所

中大理工ポート部 OB会長 内藤 堅一

理工ポート部の創立は1963年（昭和38年）ということになっていて、今年2018年（平成30年）が55周年になる。この年は第一期の吉田先輩などが大学2年時の正科体育の授業でボートを漕いだ時になる。クラブの形を成したのは正確には1964年（昭和39年）の東京オリンピックの年の秋であると思うが、1963年（昭和38年）を起点にするのも間違いではない。私は1964年（昭和39年）に大学2年生になる前の春休みに、1期の吉田先輩に呼び出されて戸田でナックル6（正科体育用で作ったのか大きくて重い船）を漕いだのが最初である。4月には土木工学課の1年生を入部させ、夏には戸田の合宿所で寝袋を持ち込んで合宿をした。山へ行くような格好でリュックサックに寝袋や食料の缶詰などを担いで合宿所に入った。今年は猛暑だが当時は戸田付近も夜は涼しかったように思う。練習中に水分を補給するということがなかった。秋には初めて相模湖レガッタにナックル4で2杯参加した。審判艇にも抜かれるという失態を演じて、これからは理工ポート部としてきちんとレースに参加できるように練習しようという決意を始めたのが今の理工ポート部であり、主将を私が引き継いだ。

この年の12月にチャンの納会に北川先生の計らいで呼んでいただいた。チャンのボートの全盛時代（東京オリンピックに3人出場）であり、納会でOBから厳しい言葉を頂くことになった。曰く「最近中大のプレードを使ってチントラ漕いでいるクルーがあるがあれは何か？」。理工ポート部のことを話す機会を与えられ、やっと理工ポート部が認知され、やっと理工ポート部が認知された。これ以後、チャンの指導を受けることになり、翌年1965年（昭和40年）の春には戸田でチャンと一緒に合宿をし、チャンのコーチから乗艇練習のメニューも与えられ、本格的な練習が始まった。チャンとの合宿は想像を絶する厳しさで、2期の堀橋二が「理漕人」2号でこの辺のことを書いています。

4月には理工工学部の全学科から新生を募集し、3期生を集めた。このうち、4年まで漕いだのは5人であったが、新戦力を加えて大いに練習に励んだ。この年1965年（昭和40年）の相模湖レガッタでは、1年目の屈辱を晴らし、予選を突破した。体力的にも技術的にも大幅に進歩してチャンからも認められるようになる。

翌年1966年（昭和41年）の東経大定期戦に、3年生の長谷川真之（3期）と2年生望月誠（4期）の二人が漕手とコックスで付フォアに出場して、東経大に勝っている。東京オリンピックの時に全盛時代の中大漕艇部も2年後には部員が少なくなっているのが分かる。「中大大学漕艇部50年史」によると長谷川真之は1966年と1967年、望月誠は1966年と1968年まで部員として登録されている。創部4年目で、チャンと理工漕艇部が相互に依存する良い関係が築かれた時代である。

創部10年目、1972年（昭和47年）に理工ポート部から全日本選手権の付きペアで優勝するというクルーが現れた。長足の進歩である。このことは先ほどの「中大大学漕艇部50年史」にも掲載されている。50周年記念式典での中大漕艇部のOB会会長の会田さん（東京オリンピックにフォアで出場）の挨拶でもこの話をして頂き、たいへん誇らしく思った。このクルーのことについては、別項で詳しく書いて貰おうと思う。

中大漕艇部に籍を置いた理工ポート部員 第1号

3期 長谷川 真之



理工ポート部誕生の裏側

1964年（昭和39年）の秋に相模湖レガッタのナックル4に出場したが、結果は惨敗だった。これを機に主将を引き継いだ2期の現内藤会長が、同好の士の集まりではなく、これからは運動部としてレースに参加できるようにしようと強引にリードした。

中大漕艇部への移籍

1966年（昭和41年）に中大漕艇部から応援の要請があり、3期の長谷川と4期の望月が指名された。漕艇部50年史によると長谷川は1965・1966年、望月は1965・1967年に部員として登録されている。理工ポート部に籍を置きながら、中大漕艇部の部員になった第1号である。

東京経済大学との定期戦の舵付き4にコックス望月、3番長谷川で出場し、対抗戦で勝った。当時はナックル艇にしか乗っていなかったもので、シエル艇に乗るのも初めてであった。本チャンの3人は小生同様1.8mの巨漢であったが、一カ月程度の練習で定期戦に参加した。シエル艇に乗るのも、2000mの距離も初めてだったので勝った、負けたの記憶もないほど無我夢中だったが、ナックル艇にないバランス感、キャッチの感覚、スピード感等、疲れたが夢のような2000mであった。

この時指導頂いた本チャンの北川監督は厳しいなかでも温かい人柄で練習のさなかに小生の腹筋をほめてくれた事がうれしい思い出である。

就職に当たっての選択

私は大学の勧めもあって国家公務員試験を受験した。結果は合格であったが、公務員の道へは進まず、海外業務をやりたくて民間のパンフィックコンサルタンツに入社した。内藤会長が吹聴されているが、実際の所を少し書いておく。

4年になり大学の勧めと学業成果の思い出として公務員試験を受験した。驚いたことに110番代で合格だった。面接で少し順位を上げたが、それでも任官の可能性のある役所は、防衛施設局、運輸省研究所、特許庁のみであった。卒論担当教授の任官の勧めも断り、迷うことなく内定を頂いていたパンフィックコンサルタンツに入社した。

私が理工工学部を選択したのも、内藤会長が就職したパンフィックコンサルタンツ（業界で海外業務量が日本一と1番2番を争う）を選んだのも、将来海外で仕事をしたい一念だった。入社後2年間津田の英会話塾に通い、2年後にはフィリピン人のレイテ島とサマル島に当時世界一の海峽橋梁（日本の戦後賠償案件）建設プロジェクトに参加し英語と海外業務の経験を積み、その後5年間の国内業務を経て、本格的に海外業務部門に移り、その後25カ国で主にODA案件を手掛け70歳で退職した。

ポートと海外業務に出会って、良い人生を送れたと感じている。

昭和56年7月 『理漕人』発刊

6期 北島 正



理工ポート部55周年記念誌におめでとうございます。

今回、55周年式典に合わせて、55周年記念誌を発行するというところで、過去のOB会報である「理漕人」の発刊当時を振り返らせていただきました。1981年創部18年を迎えるにあたり、わが理工漕艇部にもOBの会話の窓口を作りたいと思いい立ち、理工対抗で早大理工のマネージャーであるおもて氏から聞いたOB会誌を発行することを決め、題名を「理想」と「理工の漕ぐ人」とをもちいて「理漕人」とした次第です。

「理漕人」の発刊当時はOB会も当時の主力でありました。内藤さん、渡辺さんが会社内での高揚によるご多忙と会員数の増加により私以下、神崎、中本、浜中、加納を中心にして活動を再開した時期でもありました。OB会同士の親睦とOB会の発展にお役に立てばと思いい、新宿の談話室滝沢などで、ずぶの素人が心もとないまま作成しておりましたが、吉田先生のご協力や私の友人が印刷屋をしていたこともありなんとか無事に発刊することができました。

最終的には3号と長くは続きませんでしたが、編集作業で神崎宅に休日返上で徹夜で試行錯誤しながら作業をしたりとOB会員の笑顔を思い浮かべ作業に励んでいたのは今では大変良き思い出です。55周年を迎えOB会がかつてのポートバカが集まり、現役の皆さんと交流の場として、また、たわいのない話ができるような場として現役の皆さん共々発展し続けることをお祈り申し上げます。

北川監督を偲んで



北川喜一郎元監督が2018年（平成30年）8月17日に享年91歳で他界された。北川監督は理工ポート部創設に深くかかわっておられ、北川監督の尽力がなければ理工ポート部は存在しなかったといえる。ご存じない方も多くなったので、少し関係を記しておきたい。

北川喜一郎先生は中央大学商学部の元教授で1960年～1965年に中大漕艇部の監督をされていた。東京オリンピックのボートのコーチでもあった。

理工ポート部の始まりは1期生の吉田先輩らが正科体育でボートを選択し、授業が終了した後、ナックル6を漕いだことに始まる

が、このナックル6を漕ぐ許可を頂いたのが北川監督である。東京オリンピックが終了した1964年（昭和39年）の12月の中大漕艇部の納会に私を呼んでくれたのも北川監督で、ここで理工ポート部について話す機会が与えられ、当時の中大漕艇部のOB、現役に認知して貰ったのが中大漕艇部と理工ポート部の関係の始まりである。

翌年1965年春に合同の合宿が戸田で行われ、陸トレでは徹底的に理工ポート部の最初の本格的な練習であったが、このような機会を作って頂いたのが北川監督である。深く感謝すると共にご冥福を祈りたい。